工作物石綿事前調査者講習　修了試験問題例（2026 年度）

試験形式：問題は４０問　４択マークシート式

合格基準：問題 40 問のうち、６０%以上正解すること

※出題は、当時の法的根拠・テキストに基づいており、法改正等により一部が現在の判断と異なる場合があります。

［例題１］　次の記述について、誤っているものはどれか

1．石綿とは繊維状けい酸塩鉱物でアモサイトやクロシドライト、トレモライト、アクチノライト、クリソタイル、アンソフィライトの６種類である。

2．石綿繊維などの粉じんのヒトへの吸入経路は、鼻腔→咽頭→喉頭→気管→気管支→細気管支→肺胞道→肺胞嚢の順である。

3．胸膜中皮腫の発症リスクは石綿の種類によって異なっており、アモサイトが最も高く、次いでクロシドライト、クリソタイル、アンソフィライトの順である。

4．事前調査の対象は、建築物、工作物等の解体または改修等の作業を行うときであり、事前に石綿の有無を調査することが義務付けられている。

【解答】3 アモサイトではなくクロシドライトである。

［例題２］　次の記述について、誤っているものはどれか

1．大気汚染防止法では、事前調査結果等の掲示板の大きさは日本産業規格 A3 判以上と規定している。

2．国土交通省による建築物の通常の利用時の調査は、建築時期の古い建築物、老年層が長く滞在する建築物、災害時の緊急利用が求められる建築物を優先的な調査対象としている。

3．石綿に関する技術や情報は日々新しくなっており、調査者は常に石綿に関する新旧のあらゆる情報をできるだけ多く収集する努力が必要である。

4．分析調査を行った場合、分析結果に関しては分析機関に責任があるが、調査者が分析結果を是認したうえでの最終結果である事前調査結果報告書については調査者に責任がある。

【解答】2 老年層ではなく若年層である。

［例題３］　目視調査に関する次の記述について、誤っているものはどれか

1．建材・資材の取り外し、停電での調査、設備停止なども行う。

2．大規模なプラント全体などが対象の場合には、対象の外周を一周する。隣接する建築物が密集していたら、街区１ブロックの外周を一周する。対象物から離れると、塔屋や煙突の位置などといった全体像を確認できる場合がある。主道路と建築物の位置関係と方位を確認する。

3．フランジ等を開放しないまま「みなし含有」としてはならない。

4．書面調査を経ても、石綿含有の有無が明らかにならなかったガスケット・パッキンもあると想定される。

【解答】3 個別に分析調査するのは合理的でなく「みなし」とするか方向性を検討する。

［例題４］　事前調査結果報告書に関する次の記述について、誤っているものはどれか

1．X 線回折装置による定量分析の際、基底標準吸収補正法では、国内の分析機関のほとんどは銅板を基底標準としている。

2．偏光顕微鏡法で「検出」または「0.1－5%」の表記があった場合、既に確認済である場合を除き、定性分析の結果のみで「石綿が 0.1%を超えている」として扱う「みなし措置」を実施するか、石綿が 0.1%を超えているか否かを明確にするために「定量分析」を実施するかを発注者に確認する。

3．調査者は分析結果の報告までを含めて調査全般を采配しており、発注者から分析結果報告書の読み方や内容についての問い合わせがあった場合、速やかに分析機関にその説明を求めることが望まれる。

4．調査対象材料は、吹付け材・保温材、断熱材、耐火被覆材、成形板、その他の該当するもの全てを選択する。

【解答】3 調査者自身が説明する。